



10代、20代の
あなたに知ってほしい

し きゅう けい 子宮頸がんの予防のこと

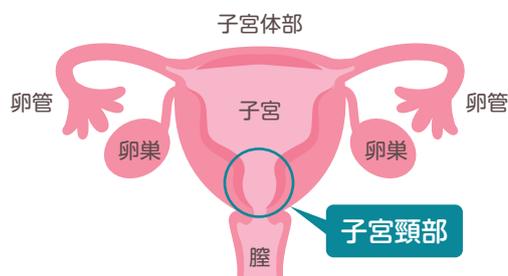
子宮頸がんって、どんな病気なの？

ウイルス感染が原因で、
誰でもなる可能性のあるがんです。

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口付近（子宮頸部）にできる
がんで、主に性交渉によるHPV（ヒトパピローマウイルス）感染
が原因です。

日本では20～40代の女性を中心に毎年約1万人の方が子宮頸
がんと診断され、年間約3,000人の方が亡くなっています。また、
子宮頸がんの治療では子宮摘出などの手術や放射線治療が必要と
なり、出産することができなくなる方も少なくありません。

子宮頸がん



子宮頸がんは予防できます

≪ 子宮頸がんを防ぐためにできる2つのこと ≫

01 HPVワクチンで感染を予防

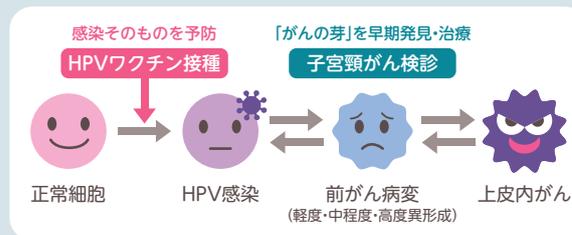
9価ワクチンの接種で、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを9割以上予防できます。

HPVワクチンは予防に効果がありますが、100%防ぐことはできません。ワクチン接種の有無にかかわらず、定期的な検診が大切です。



02 子宮頸がん検診で早期発見

定期的な検診で、がんになる手前で見つけることができます。しかも検診では「がんになっていないか」だけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（前がん病変）」も調べることができます。早期に対処できれば、子宮を失わずに治すこともでき、妊娠・出産も可能です。





ワクチンで感染予防を

【HPVワクチンの定期接種の対象となる方】

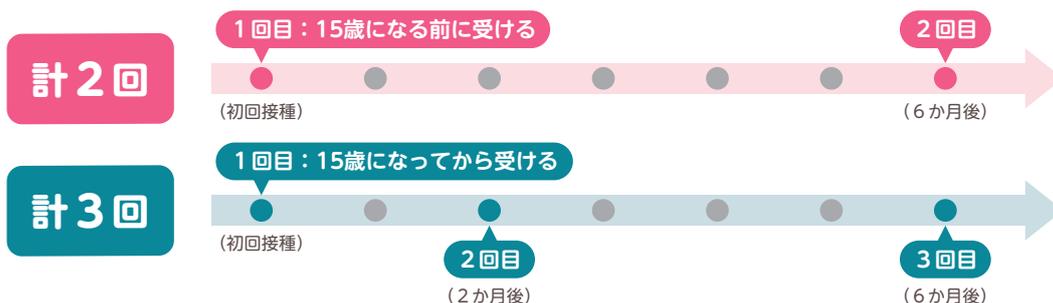
小学校6年生～高校1年生 相当の女子

※対象者は、定期接種として**無料(公費助成)**で受けられます。
対象期間を過ぎた場合は、任意接種(全額自己負担)となります。



【9価ワクチンの標準的な接種スケジュール】

原則として同じワクチンを3回接種しますが、14歳で接種を開始した場合、2回の接種で完了します。



HPVワクチン接種にも**リスク**はあります

接種部位の痛みや腫れなどは80%以上の人に生じるとされます。また、まれに重いアレルギー症状などが起こることがあります。気になる症状が出た時は、すぐに医師に伝えましょう。



検診で早期発見を

20歳になったらワクチンを打っていてもいなくても**検診**を

子宮頸がんは初期では自覚症状がない場合が多い病気です。近年では20～40代の女性がかかることが多くなっています。自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

職場等でがん検診を受ける機会がない20歳以上の女性は、安城市の子宮頸がん検診を利用できます。

Q1 検査はどんなことをしますか？

A 綿棒やブラシなどを挿入し、子宮頸部の細胞を採取します。検査は、数分で終わります。気になる場合は、女性医師のいる病院を探すのも手です。

Q2 ワクチン接種をしたら、検診は受けなくてもいいですか？

A ワクチン接種では予防できないウイルスもあるため、定期的に検診を受けることが必要です。



【出典：国立がん研究センターがん対策研究所「知ってくださいヒトパピローマウイルス（HPV）と子宮頸がんのこと」
認定NPO法人がんネットワークジャパン「子宮頸がん予防のこと」】

がん検診の
受診券発行
申込はこちら



ワクチンも検診も
市内医療機関で
受けることができます



ヒトパピローマウイルス
感染症予防接種



安城市がん検診